

# 令和3年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

### 東北ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて9頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題 1 登録基幹技能者に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力がある。
2. 登録基幹技能者は、豊富な知識を有している。
3. 登録基幹技能者は、現場の技能者を分散させることができる。
4. 登録基幹技能者は、マネジメント能力を備えている。

**問題 2 建設技能者の職業能力基準やキャリアパスに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. レベル 1 は、指示された作業を手順に基づいて他の作業者を一緒に実施できる。
2. レベル 2 は、分担された作業を手順に基づいて実施できる。
3. レベル 3 は、現場管理や施工技術について元請と協議し、作業手順を組み立てることができる。
4. レベル 4 は、報告・連絡・相談等、施工上の伝達管理ができる。

**問題 3 登録基幹技能者制度の活用に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 登録基幹技能者は、国土交通省における工事の総合評価方式で加点対象項目として活用されている。
2. 登録基幹技能者は、元請企業の優良技能者認定制度の要件として活用されている。
3. 登録基幹技能者は、都道府県における工事の総合評価方式で加点対象項目として活用されている。
4. 登録基幹技能者は、民間企業における工事の総合評価方式で加点対象項目として活用されている。

**問題 4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 調整力
2. 忍耐力
3. 開発力
4. 企画力

問題5 登録基幹技能者に必要な資質に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 信頼がある
2. 勇気を出して実行できる
3. 執念がある
4. 決断力がある

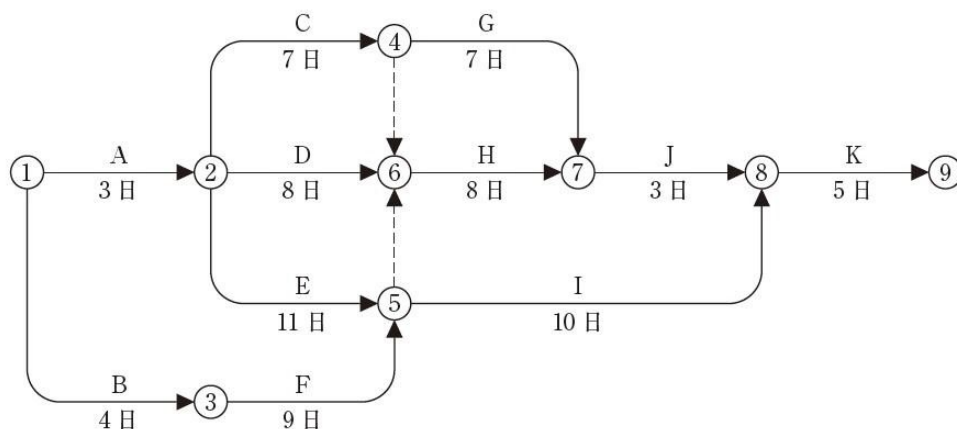
問題6 登録基幹技能者としての倫理・法令の遵守に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 他の技能者が、生コンクリートに加水しないように注意した
2. 他の技能者が、鉄筋を間引きしていたので放置した
3. 他の技能者が、足場の筋交いはずさないように伝えた
4. 他の技能者が、手抜き工事であったことを報告した

問題7 レベルに応じた技能者の指導・教育に関して、最も不適当なものはどれか。

1. OJT は、職場の上司が部下を育成することである
2. OJT は、日常の仕事を通して指導を行うことである
3. OJT は、日常の生活を通してしつけを行うことである
4. OJT は、作業を通して技能者のレベルを上げることである

問題8 次の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表のクリティカルパスは、A-E-H-J-Kである。
2. この工程表の工期は、30日である。
3. 作業Eのトータルフロート（余裕日数）は、0日である。
4. 作業Kの最早開始時刻（EST）は、5日である。

問題9 建設業法上違反となるおそれがある行為の事例に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 元請負人の施工管理が不十分であったなど、下請負人の責めに帰すべき理由がないにもかかわらず下請工事の工期が不足し、完成期日に間に合わないおそれがあった場合において、元請負人が下請負人との協議を行うことなく、他の下請負人と下請契約を締結し、又は元請負人自ら労働者を手配し、その費用を一方的に下請負人に負担させた場合。
2. 元請下請間で請負代金の額に関する合意が得られていない段階で、下請負人に工事を着手させ、工事の施工途中又は工事終了後に元請負人が下請負人との協議に応じることなく下請代金の額を一方的に決定し、その額で下請契約を締結した場合。
3. 元請負人の都合により、下請工事が一時中断され、工期を延長した場合において、その間も元請負人の指示により下請負人が重機等を現場に待機させ、又は技術者等を確保していたにもかかわらず、これらに伴って発生した増加費用を一方的に下請負人に負担させた場合。
4. 下請契約に基づく工事目的物が完成し、元請負人の検査及び元請負人への引渡し終了後、元請負人が下請負人に対し、長期間にわたり保留金として下請代金の一部を支払わない場合。

問題10 ブレインストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. BSのルールでは、他人の意見を批判しない、量を出すことが優先されることから、安心して誰もが自由にアイデアを述べることができる。
2. BSは、10～15人程度の人数の集団で、ある人の意見やアイデアに関して他の人たちが連鎖反応を示し、多彩・豊富・独創的な考え方を引き出す働きがある。
3. BSにおけるアイデアや意見に関する連鎖反応は、チーム全体の楽しさや競争心を生み出すことにつながっている。
4. BSのメンバーは、専門家、他分野の専門家、ゼネラリスト等で構成することが望ましい。

問題 1 1 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. コールドジョイントとは、コンクリート打ち込み継続中、前の層のコンクリートを打ち込んでから相当時間経過した後に、次のコンクリートが打ち継がれたときに生ずる不連続面のことである。
2. ジャンカとは、型枠解体後、硬化したコンクリートの表面に見られる、空隙の多い不均質な砂利の露出、凝集部分のことである。
3. 白華とは「ブリージング」ともいい、レンガ目地、コンクリート等の表面に発生する結晶化した白色の物質のことである。
4. レイタンスとは、コンクリート打設の際、浮き水と一緒に浮上したセメント中または骨材中の微粒子からなる薄い泥状物の層のことである。

問題 1 2 品質確保の促進等に関する法律に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 住宅の品質確保の促進等に関する法律で 5年間の瑕疵担保責任の対象となる部分に関して、2. 雨水の浸入を防止する部分は、3. 住宅の屋根又は外壁の開口部に設ける戸、わくその他の建具があり、これらの部分には4. ブチルテープ等を張るなどして、対処する。

1. 住宅の品質確保の促進等に関する法律で 5年間の瑕疵担保責任
2. 雨水の浸入を防止する部分
3. 住宅の屋根又は外壁の開口部に設ける戸、わくその他の建具
4. ブチルテープ

問題 1 3 現場の工事監理者より、コンクリート面で二丁掛けタイルを接着剤張りとした、セメントモルタルによるタイル下地の計画案の提出に関して最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート面を超高圧洗浄とした。
2. 吸水調整材を 4 から 5 倍液とした。
3. 下地調整塗材を CM-1 とした。
4. タイル下地モルタル仕上げ表面を金鋺仕上げとした。

問題 1 4 劣化のメカニズムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁は、  
2. その境界面では、 3. 異なった変形挙動がおきる。 これを 4. モイスチャームーブメント という。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁
2. その境界面
3. 異なった変形挙動
4. モイスチャームーブメント

問題 1 5 塗り壁の故障の原因、内容、是正措置とそれぞれの組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか

1. 下地の吸水が激しいときは、吸水調整材を水で4~5倍にして下地に塗布した。
2. エフロレッセンスは、しみ・はく離を発生するので、除去することが必要である。
3. 上塗りで、ひび割れや剥離が発生するのは、塗り層で下塗りほど貧調合にしたことによる。
4. 未乾燥のセメントモルタルにせっこうプラスターを塗り付けると、はく離やひび割れが発生するので、セメントモルタルを十分に乾燥させてから塗り付ける。

問題 1 6 左官下地に関して、下線部分で最も不適当なものはどれか。


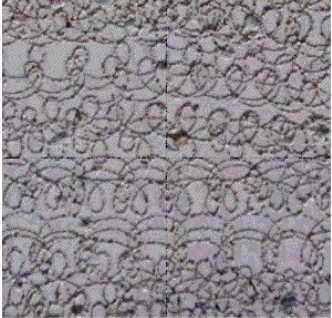
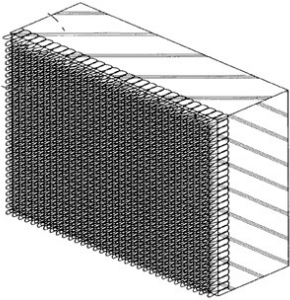
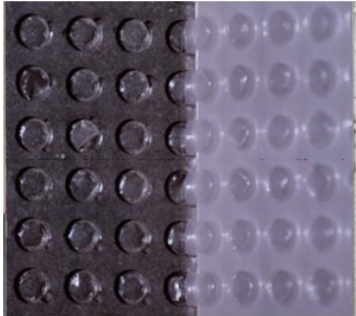
凹凸が著しい箇所はつけ送りし、仕上げ厚が均一となるように不陸調整を行う。1. 下塗りに先立ち、仕上げ厚が均等になるように躯体面の不陸を予め調整するつけ送りは、躯体補修であり、2. 左官工事の仕様書の対象範囲外であることが JASS 15 に記載されている。 3. しかし、他の仕様書につけ送りの具体的記述がないことから、JASS 15 に記載されている。 4. 不陸調整として行うつけ送りは、1回の塗り厚を12mm以内とし、それ以上あるときは2回塗り以上とする。

問題 1 7 JIS A 6909 (建築用仕上塗材) の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装厚塗材Gとは、内装せっこう系厚付け仕上塗材のことである。
2. 内装薄塗材Cとは、内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材のことである。

- 3. 外装薄塗材Eとは、外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材のことである。
- 4. 内装薄塗材Wとは、内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材のことである。

問題18 コンクリート表面の処理後の表面状態と処理方法に関して最も不適当なものはどれか。

<p>1. 高圧水洗浄の例（吐出圧 50N/mm<sup>2</sup>）である。</p>	
<p>2. カップサンダー掛け</p>	
<p>3. 専用シートによる起毛処理</p>	
<p>4. 専用シートによる凹凸処理</p>	

**問題 19 施工管理における三大管理とその関連性に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 工程と原価の関係は、施工速度を上げると単位時間当たりの出来高が増え原価は安くなる。
2. 品質と工程の関係は、品質の良いものは一般に時間がかかり施工速度は遅くなるが、品質を下げると施工速度は上がる。
3. 工程と原価の関係で、施工速度を上げ過ぎると突貫作業となり、逆に原価は高くなる。
4. 原価と品質の関係は、一般的に品質を良くすると原価は低くなるが、品質を下げると原価は高くなる。

**問題 20 仮設計画に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 仮設は使用目的・使用期間等に応じてその計画を設計する。
2. 仮設は、工事の目的とする建設物でなく、臨時的なものであって工事完成後、原則として取り除かれるものである。
3. 仮設という呼び方につられて、ややもすると手を抜いたりおろそかになったりしやすく、事故の原因となって、かえって多くの費用が必要となる場合もある。
4. 一般に仮設は、本工事に含まれるものであり、設計図に記載された工法に基づき、計画を立てる。

**問題 21 一般材の発注プロセスに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 品目・サイズが多く、購入価格に変動のある資材も多いので、単価契約等の処置を可能とするために品目別数量表を作成しておくが良い。
2. 市販品を使用する場合は、カタログ等に記載されているので、新製品やなじみの薄い商品であっても見本品等を取り寄せる必要はない。
3. 搬入は現場の状況にもよりますが、工程に応じて施工に必要な数量を納入依頼する。
4. 購入にあたり、作成した数量表の数量は設計図に基づく見込み数量であり、施工に必要な数量は施工方法を元請と十分に検討し、作成された施工図により算出する必要がある。



**問題 2 2 建設工事費の構成に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 建設工事費は工事目的物を作るのに直接要する費用である「直接工事費」のほかに、それを実現するためにかかる諸々の間接的経費で構成されている。
2. 直接仮設費とは、各工事種目に共通の仮設に要する費用である。
3. 一般管理費とは、工事施工にあたる受注者の継続運営に必要な費用としての一般管理費（本支店経費）と付加利益を指す。
4. 現場管理費は工事施工にあたり工事現場を管理運営するために必要な費用である。

**問題 2 3 わが国の建設業における労働災害の現状について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。**

1. 労働災害には、通勤途上の災害は含まれる。
2. 建設工事全体の死亡災害を事故の型別で見ると、倒壊によるものが最も多い。
3. 労働災害の減少した要因の1つに、安全施工に関わる各種技術基準の整備がある。
4. 建設業の安全対策が難しい理由の1つは、作業内容が日々変化することが挙げられる。

**問題 2 4 各種労働災害防止について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。**

1. 高さが 2m 以上の所での作業を行う場合、基本的には作業床を設置する。
2. 居ながらリフォーム工事では、感電やガス爆発に注意が必要である。
3. 解体工事は短期間に終わるので、石綿による健康障害防止対策を考える必要がない。
4. 熱中症予防対策として、WBGT（暑さ指数）を測定することは有効である。

**問題 2 5 法で定められた建設現場における安全管理について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。**

1. 元請業者は、現場で作業員を雇い入れた時、顧入時教育を行う必要がある。
2. 作業主任者を選任しなければならない作業に、型枠支保工の組立・解体は含まれる。
3. 作業員の義務として、定められた保護具の着用・使用の義務がある。
4. 複数業者が混在する 15 人の建設現場では、安全管理のために元請業者は統括安全衛生責任者を必ず選任する必要がある。